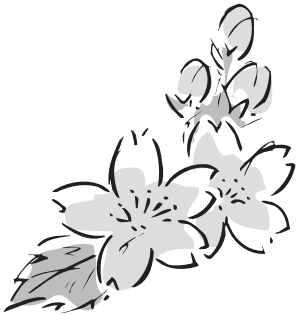


ふれあいと語らいの同窓会

東実同窓会報 No.19

発行 〒144-0051 東京都大田区西蒲田8-18-1 TEL 03-3732-4481

東京実業高校同窓会会報部
http://www.tojitsu-dosokai.com



あいさつ



第34期 会長 本田 位公子

明けましておめでとうございます。

初春を迎え皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。

年頭に当たり、在校生の清々しい気持ちのいい「あいさつ」についてお話しをさせていただきます。

一口に「あいさつ」といっても気はずかしさが先にたつてなかなかスツと言葉に出てこないのが現実だと思います。しかし、母校の生徒たちは校内ですれ違ったとき、或いは校庭で顔を合わせたときなど大きな声で気持ちのいい「あいさつ」をしてくれます。つられて私も大きな声で「あいさつ」を返します。こんな時は何か幸せになったような気分になります。口から発する優しい言葉は相手の気持ちや周りを穏やかな雰囲気してくれます。言葉の魔力とでも言うのか言葉の魅力を改めて実感している次第です。しかし、その反対もあるので要注意！日々暮らしの中に、朝は朝の気持ちのいい「あいさつ」があるように、考えてみると「あいさつ」は身の周りにはたくさんあります。その一つでもいい、ずっと続けてみると「言葉は人なり…」と思う所にいきつきます。

このような「あいさつ」が自然に出来るような生徒に育てて下さった先生方の教育現場でのご指導に感謝いたしております。

年頭にあたり、皆様のご多幸と東京実業高校の益々のご発展をご祈念申し上げます。



平成19年度 同窓会定期総会 (2007.6.9)
“ブラザ・アヘア”





東京実業高校の歩み



理事長 上野 雅子

東京実業高校は創立八十五周年を迎えました。本校は大正11年に甲種実業学校として文部省の認可を受け、商業課程の学校として設立認可を取り、ここに東京実業学校が産声をあげました。この時、すでに東京中学校は創立五十周年を迎えていましたが、創設者上野清は「次代のための実業養成教育」、「社会に役立つための学問育成」を熱望し、東京実業学校を創立しました。その時、創立の手助けをしたのが祖父の上野熊蔵だったと、『東実70年史』に載っています。当初は神田西小川町に校舎があり、東京中学が早朝から昼まで授業を行い、午後1時から5時までを東京実業学校が使用するというで始まりました。その1年後には関東大震災に遭い、校舎もあっという間に灰燼に帰してしまい、本当に大変な学校経営だったであろうと思います。しかし、大正14年には東京実業学校夜間部が発足し、多くのすばらしい人材が世に送り出されることとなりました。その一人に、鬼検事として政財界に恐れられた河井信太郎氏（本校元理事）がいたことはテレビ「知っているつもり」でも紹介されたのでご存知のことと思います。

そして、創立15年になって初めて単独の校地校舎を、ここ蒲田に持つこととなり、現在の東京実業高校の基が作られました。その時の上野熊蔵の入校式挨拶を一部紹介させていただきます。

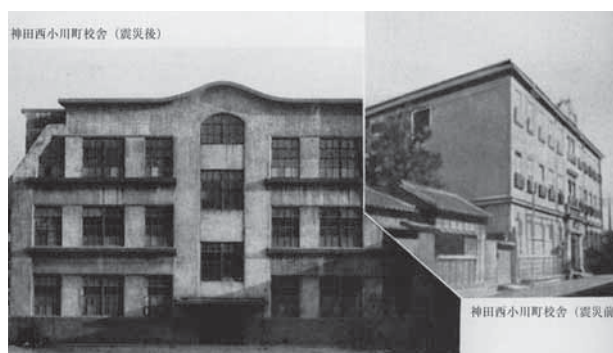
「～大東京 将来の進展は 南へ南へと延びて行くことが予想されますから 必ずや 交通網の発達によって 東京たるものは 多摩川を渡って川崎・横浜を打って一丸としたる大都会となることは 遠い将来ではないと考えられます。～即ち 新興蒲田の街々を見ますと 総てにおいて 活気が横溢しております。蒲田は工場だと多くの方は申しますが 工業の盛んなる所は必ず商業も之に伴うものと 私は信じるものであります。故に 大

東京における商工業の中心は蒲田にありと 言われることは 既に眼前に迫っております。～」

校地設定に熊蔵が考えたことは、京浜の新産業地帯に近いこと、交通の便、特に省線（現JR線）から5分以内の校地であることであったそうで、この蒲田はまさに打って付けの地であったのです。今から70年以上前に高邁な理想のもとに新しい実業高校として出発した東京実業高校は、昭和20年には東京大空襲に遭いながらも多くの人々の尽力により、今日まで存続し続けてきました。

今、こうして学校の歴史を振り返ってみますと、何と多くの人々がその時代その時代に活躍をし、手助けをし、困難を乗り越えて、ここまで辿り着いたことかと感慨無量です。どんな社会においてもそうですが、歴史というものには名が残る、残らないなど関係なく、その時代に生きた多くの人々が関与し、努力しながら作り上げていくものだと思います。これから東京実業高校が百年、二百年と、その歴史を築いていくためには、今後も、多くの人々の活躍と尽力がいかに必要かを改めて知った次第です。

同窓生の皆様、ご助力をどうぞよろしくお願い致します。



神田西小川町校舎（震災後/震災前）



蒲田新校舎（正門）昭和18年頃

素^そしい日本語を大切に
株式会社 佐々木印刷所

☎146-0095

東京都大田区多摩川1丁目18番5号

TEL.03-3758-0710

FAX.03-3758-2821

第56期 佐々木 健



「21世紀の東実 - その後の7年間の歩み」



学校長 上野 毅

私は平成12年の同窓会報に教育改革の中身を書きました。一言で言いますと、文科省の改革は、「生きる力」を持った人間を育てよう、ということでした。今までの詰め込み教育を排し、自分で考える力を持った人間を育てることに主眼をおいたカリキュラム編成を考え、新しく総合学習の時間を設けました。土曜日を休みにした週5日制のスタートと同時でしたから、全体の授業時間の減少も背景にありました。

最近、日本の児童数学力コンテスト（3年毎に実施）の世界比較ランキングが発表されました。

平成13年に文科省が改革をスタートさせてから5～6年で、日本は年を経る毎に世界で1位から6位、10位になってしまいました。

それからというもの、文科省はじめ世間からは日本の現在の教育はこれで良いのか、という大合唱が始まりました。公立では週5日制は、維持しつつ、PTA主催で、あるいは、同窓会が講師料を出して土曜日授業を行うなどして、受験勉強に力を入れています。平成13年当時、小中学校現場で危惧していたのは数学、国語のドリルの時間が少なくなり、基礎学力が落ちてくるのではないかという点でした。

あれから7年、今、東京実業高校へ入学する生徒の数学の力も確実に落ちていて、入学後特別授業として補習をしています。また、本校へ入学する生徒の中には中学校時代、塾へ行って勉強をしていた生徒も多数います。

本校は時代の要請に応える形で昭和19年に機械科を設立し、昭和45年には電気科を設立して、工業立国の日本の中堅技術者を輩出して来ました。しかし、ここへ来て少子化と、日本の中の産業構造の変化とで、入学者数が減って来ております。工場が海外移転した今、日本で必要とされる技術者は多分技術的に機械化されない、先端技術の手作業部分を担う伝承的な技術者くらいの者でし

よう。

今、公立の全国的な傾向として工業高校を減らし、統廃合しながら総合高校を増やしつつあります。

しかも、その中身は従来の機械科とか電気科は一クラスずつくらいで、被服、調理、環境工学コース等手作業的なコース、時代を反映した学科のコースを新設して、従来の重厚長大的な学科は統廃合する傾向にあります。

さて、本校はどの方向へ行くべきでしょうか。普通科はビジネスコース、文理コース共に生徒は集まっています。大きな時代の変革期にさしかかっているように感じます。話は元に戻りますが、東京実業高校は昔から「社会に出て役に立つ学問の育成」を目的に生徒を育てて来ました。今さら「生きる力」を目的にすえなくても良いと思います。しかし、応募者が減少している現況を考える時に、これからどのような専門コースが求められているのか考えなければなりませんと思っています。また、専門コースはこれ以上求める必要はなく、とりあえず普通科文理コースが正解で、専門は大学で学ぶのが正しい道なのではないでしょうか。むずかしい問題です。



平成19年度 同窓会定期総会（2007.6.9）

めっき材料総合商社

株式会社 三 松

本社 東京都大田区西蒲田7-57-11
 〒144-0051 TEL (03) 3733-7131 (代)
 湘南営業所 藤沢市辻堂西海岸2-14-45
 〒251-0047 TEL (0466) 34-1711 (代)
 横浜営業所 横浜市神奈川区恵比寿町7-5
 〒221-0024 TEL (045) 461-6088 (代)

第17期 村松 濱代

スポーツのことなら!

しろかね

白銀スポーツ

ユニホーム・スポーツ用具
 用品・施設・工事一般
 カップ・賞品・トロフィー

〒143-0024 東京都大田区中央8-29-7
 TEL (03) 3754-8679 FAX (03) 3754-4845

第37期 白銀 正明

学校近況報告

平成19年4月から副校長に就任致しました北井邦寿です。よろしくお願いいいたします。

さて、昨年4月に入学した生徒は427名です。少子化が進む状況下でもあり、定員には満たないのですが、多くの生徒が入学しました。3年間で人間的にどのように成長するか、楽しみです。

5月に麻疹（はしか）が流行しました。そこで、すでに罹患したか、予防接種を受けているかなど全校生徒を対象に調査しました。その間にも患者が増えていき、学校は5月下旬から約2週間休校となりました。その後、1学期内での患者の発生はありませんでした。

7月上旬は、1・3年生は期末試験、2年生は期末試験終了後、北海道へ修学旅行に行きました。7月の北海道は、花の期間で、特に富良野はすばらしく、生徒も満喫できた4泊5日でした。

10月は体育祭、男女それぞれのエネルギーの爆発、同窓会、親師会参加の玉入れなどを、晴天のもと和気藹々で行いました。

11月は東実祭、盛況の内に終わりました。同窓会には今年も「同窓会の部屋」の開設とイベント会場のテントで「校章入りのどら焼き」の販売で参加していただき、売り上げた利益は全て生徒会に寄付していただきました。

入試対策としましては、9月・11月に体験入学、8月から12月までの期間に学校見学会が実施されました。本校を訪れた多くの中学生にはそれぞれ各科の内容を理解していただきました。

毎年、卒業式を迎え、入学式を迎え、生徒の変化を認めながら、卒業した先輩が築かれた伝統を絶やすことなく、教職員は努力を継続し、新たな東京実業高等学校を模索しています。

■各クラブの活躍

*マーチングバンド部

マーチングバンド部は、関東大会を1位で通過し、全国大会へ出場いたしました。

12月15日(土)、埼玉スーパーアリーナは、観客席がすべて埋まりました。小編成の部で優勝（最優秀賞）。全体で7年連続の金賞を受賞しました。

なお、3月1日、祝勝会が行われ、共催として同窓会より、お祝いをいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

*野球部

夏の東東京大会で準決勝まで進みました。1回戦の日比谷高校と延長15回で決着がつかず、翌日の再試合で勝ち、その後次々と強豪高校を破りました。多くの生徒、先輩方に応援をいただき、ありがとうございました。



副校長 北井 邦寿

*陸上競技部

個人では、第62回国民体育大会少年男子5000m競歩で3年生の荒木貴寛君が7位に入賞しました。

全国高校駅伝大会東京都予選は、11月3日に行われ、惜しくも第4位でした

■教職員の異動

*新任教職員

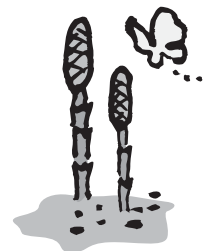
社会科 片山 智裕先生
用務 工藤 勝則さん

*退職教職員

副校長 青木 英二先生
機械科 栗原 宣雄先生
英語科 田中 保弘先生
社会科 大岩 守郎先生
用務 龍崎 義也さん

*訃報

事務 中島 京子さん



—企画・デザイン・印刷全般—

トータルプラン株式会社

〒144-0032 東京都大田区北糀谷1-18-14
TEL (03) 5736-3447 FAX (03) 5736-3448
E-mail : total@wing.ocn.ne.jp

第38期 川邊 國造

〇〇 ゆったり 〇〇 都南ユウキ パーキング

〒144-0044
東京都大田区本羽田3-23-46
TEL・FAX 03 (3745) 0891

第32期 石井 澄枝

機械科の 現況報告



機械科科长 千田 一雄

同窓会会員の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

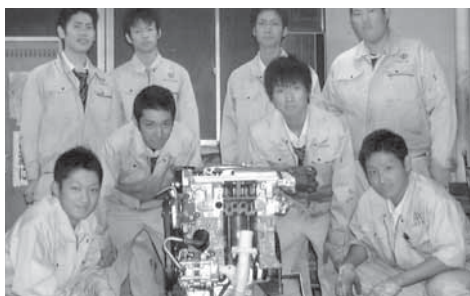
歴史ある機械科では毎年数多くの卒業生を輩出し、関東近県で活躍していることはご存じの通りと思います。現在の機械科は1年生102名3クラス・2年生84名2クラス・3年生88名3クラスとなっております。

少子化、工業科離れという中に於いて、本科では先生方が一丸となり、「ものづくり」をテーマに授業内容を考え、生徒達が興味を持つように日々努力しています。その一例を挙げますと、応用工作実習ではカットエンジンの製作を行っています。その授業内容を少し紹介します。

まず初めに自動車用エンジンの構造を理解させ、どの部分をカット（切削）すればその中の構造・動きが一目で解るようになるのか。また、そのようにするにはどの部分をどのような工作機械を使って加工するかを考えさせます。時には弓のこ・やすりによる手作業を体験させ「ものづくり」の楽しさを学ばせています。初めは手に油が付いたり作業服が汚れる事を嫌っていた生徒達も作業が進み、組み上がって行く過程になると授業時間も忘れ、夢中になって作業をしています。このような現状を見てるとちょっと大げさかもわかりませんが日本の「ものづくり」も大丈夫だろう、と思います。現在、世間に出回っている製品は各メーカーが最先端の技術を駆使して完成させています。これらを見るとどの様な技術が組み込まれているのかということより、便利に使える、簡単に操作できるという方が先になっているのが現状だと思われます。この授業内容を通して、まだまだ機械科健在、と少しながら安堵している現在です。



カットエンジンの
製作の始まり



カットエンジンの
完成

「電気科ダム 見学会の 思い出」



電気科科长 須賀 寛光

私は、昨年7月16日（日）午前10時13分頃、本校野球部と日比谷高校（延長15回で引き分けて翌日、神宮球場で勝利）との応援に向かうJR武蔵野線の車中でした。電車の揺れで地震だとは分らなかったが、ラジオから聴こえるアナウンサーは「東京のスタジオも大きく揺れています。慌てないで行動して下さい」と何度も繰り返して伝えていました。これが新潟県中越沖地震でした。

昭島球場に着くと試合開始時間まで時間があつたので近くのスポーツセンターに入って、設置してあるテレビから崩れた家並みと柏崎刈羽原子力発電所から黒い煙が黙々と立ち込めているライブ映像に驚きました。

電気科は以前、夏休みを前にして1学期の期末試験終了後翌日に、電気科1年生を中心に奥只見ダム見学会（3泊4日）に出発していました。「百聞は一見にしかず」でダムの中に入ると涼しさを乗り越えて寒さを感じます。ダムの大きさ・高さ・発電しているときのタービンが回転している音、迫力は体を通して感じます。授業でこれから勉強する予備知識としては十分でした。そして、奥只見ダム見学をした翌日はシルバーラインを降りて小出インターチェンジから関越道に入り、北陸道の西山インターチェンジで降りて、日本海の海岸線にある刈羽原子力発電所に向かいます。原子力発電所は管理が厳しく、生徒もそれなりに緊張感を持って見学してくれます。特に原子炉に入る管理区域に入るために、放射量を検知するICカードを個々に渡され、「万が一、それを紛失したら、ここから出られません」と係りの人から強く言われます。飛行機に乗る前に通るボディチェックゲートで前後にドアが付いているようなゲートを渡されたICカードを使って入ります。そこからウラン燃料棒が格納されている原子炉の中心まで案内されたり、原子炉の操作室、タービンなどの施設を見学し、再びICカードを使って先ほど通った個室のようなゲートから無事出て来ます。

現在も刈羽原子力発電所は運転停止状態で復旧の見込みが立っていません。昨年の猛暑は何とか乗り切れましたが、今後も関東地区の電力供給は厳しい状況に置かれています。災害に遭われた方々の復興を一日も早く願っています。

このような電気科ダム見学会は、残念ながら今から6年前に諸般の事情により中止となりました。

前号(No.18)の訂正

P	正	誤
9	平成17年度 定期総会	平成18年度 定期総会

普通科の現況報告

「文理コース」



コース長 関根 章道

現在、文理コースは1学年100名、2学年110名、3学年92名が在籍し、各学年3クラス編成となっております。

1週間分の国語・数学・英語の定着を確認する“到達確認テスト”も3年目となり、徐々に成果をみせてきました。また、2学年で展開している習熟度別授業（国語・数学・英語）も、さらに3学年で国・英の2教科を、また、1学年では数学を平成20年度から追加展開する予定です。

また、ここ数年、懸案事項であった土曜日の取り組みについてですが、平成20年度から、外部の予備校と提携を結び、年間12回の講座を開設することになりました。受講料については実際の予備校に通学するよりも三分の一程度に抑えて実施できます。対象はあくまで1、2年生の希望者ですが、さらなる実力アップを図っていきたいと思っています。

さらに、3年前まで実施していた学習合宿も再検討し、できるだけ早い時期に再スタートさせたいと思っています。

大学全入時代とはいえ、難関校合格が厳しくなっている状況は変わりません。

一人でも多くの現役合格を目指し、また、その質も高められるような取り組みを、さらに進めていきたいと考えています。

「ビジネスコース」



コース長 原田 忠彦

平成19年10月1日現在の普通科ビジネスコースの在籍数は1学年173名、2学年183名、3学年166名、合計522名であり、これは本校の中で、最も生徒数が多いコースとなっております。

男女比率は369対153と、約7対3の割合です。

共学から、また商業科から普通科ビジネスコースになってようやく5年が経ちました。私自身が本校の学生だった当時の別学（男子クラス・女子クラスに分かれている）の状況とは大きく違い、生徒自身が明るくのびのびしているように感じます。

来年度には、コンピュータも新しくなる予定です。

現在、専任8名と講師7名の先生方が簿記検定・情報処理検定など様々な検定試験に一人でも多くの合格者を出すために補習に取り組んでおります。

進路においては就職希望者が少なくなり、専門学校進学者が大半を占め、次いで大学進学希望者の順となっております。

これからも生徒の未来を見つめ、教職員と生徒が一体となって前進していこうと考えております。

平成19年度 同窓会幹事名簿 (第83期)

平成20年3月卒業のクラス別同窓会幹事です。

各クラス2～3名(12クラス:25名)

クラス	担任	幹事
M・A	藤田 稔先生	青山 聖・田邊 圭太
M・B	村山 隆先生	吉田 祐太・醐醍 亮佑
M・C	千田 一雄先生	○高野 清基・若林 元師
E・A	長谷川 浩先生	酒井 優弥・山口 貴士
O・A	田中 清江先生	◎松浦 史典・山田あさみ 今井 隆治
O・B	小島 健市先生	鈴木 理紗・柳田麻衣子
O・C	高橋 修先生	高森 里枝・徳山 雄太
O・D	関根 勝先生	松波 弘晃・宮田 雄太
O・E	井上 昭先生	○要田 美波・田中 美帆
O・F	須貝 茂先生	○五條 亮介・佐々木賀絵
O・G	宮地 裕先生	竹内 大・高橋 佑佳
O・H	山田しのぶ先生	加藤 正志・高橋 里奈

注：◎代表幹事 ○副代表幹事 学年主任＝小畑雅一先生

ご注意を！

同窓会関係者をよそおって、「名簿の作成中です ご寄付を！」などのサギの電話が横行しています。同窓会では寄付の要請は一切行っていませんので、ご注意ください。

正しいメガネ・ファッション性あるメガネ・医療器具でもあるメガネ。を高度の技術でご調製しております。

株式会社 メガネの金正堂

〒231-0045
横浜市中区伊勢佐木町2-68
TEL(045)261-3418 FAX(045)261-3252

<http://www3.ocn.ne.jp/~kinshodo/>
E-mail:kinshodo@poem.ocn.ne.jp

創部30周年 を迎えて

マーチングバンド部
監督 横田 正明



フェニックスレジメントドラムアンドビューグル

我部の正式名称は、「Phoenix・Regiment・Drum&Bugle Corps」といいます。「Phoenix」とは、校訓である「不撓不屈」の精神の象徴として校舎にも掲げられている「不死鳥」であり、その精神の継承を目指すために名付けられました。また、「Regiment」とは「連隊」を意味し、どんな困難にもチームワークをもって立ち向かう精神を培い、2文字併せて「不死鳥連隊」ともいわれております。我部のモットーは創部より「時間を大切にする」・「結果よりも過程を大切にすること」を合い言葉に日夜練習に励んでおります。また、常日頃より第一義として指導していることは、礼儀、人を思いやる気持ち、行動の俊敏さの三点を重んじながら、将来社会人になってからも東実卒業生としてのプライドを持てる様に徹底指導をしております。

マーチングバンドとは、金管楽器・パーカッション・カラーガード(旗)より構成され、大会では30m×30mのフロアを8分以内でひとつの作品を音楽と身体表現で創造し、視覚効果・音楽効果・管楽器・打楽器及び動きの技術などの観点から審査されるものであります。創部より現在までの成績は、創部4年目で全国大会初出場銀賞受賞を皮切りに、その後金賞19回(内、編成別優勝3回・全国優勝1回<1989年>)、銀賞3回を頂き、平成19年度は12月15日さいたまスーパーアリーナで開催された「第35回全国大会高等学校の部」小編成で4回目の優勝をさせて頂きました。また、年間の活動は上記大会に止まらず、学校行事はもとより蒲田周辺の商店街及び交通安全パレード、小・中学校の体育祭その他記念行事等にも積極的に活動しております。

昨年、創部30周年を迎え、今後も未来へ向け東京実業らしいマーチング活動を継続し、更なる発展に必要なものを模索し、新たな力強い良き指導者を育成しながら、「温故知新」を念頭に置き、地道な活動を心掛けていく所存であります。今後共、ご理解・ご協力の程、宜しくお願ひ申し上げます。

尚、詳しい活動内容(日時・行事等)につきましては、私共のホームページ(下記アドレス)に掲載しておりますので、ご覧頂ければ幸いです。

http://www31.ocn.ne.jp/%7Ephoenix_regiment/

生徒会報告

生徒会会長 島崎 翔太



平成19年5月14日に、生徒会役員選挙が行われ、現在の生徒会の役員が決まりました。

今年度は、麻疹が流行したため、例年より遅い6月20日に生徒総会が行われました。生徒総会とは、各委員会の抱負や生徒会から出された要望案の承諾を全校生徒に得る集会のことです。

2学期には、大きな学校行事の一つである体育祭が行われました。昨年同様、体育祭実行委員会は委員用のTシャツを作り、生徒も各クラス毎にTシャツを着て、「疾風迅雷」という、スローガンに基づき精一杯頑張りました。また、私達生徒会が提案した新しい競技が加わり、昨年よりも楽しく盛り上がった体育祭になりました。体育祭予行は、天気にも恵まれませんでしたでしたが、当日は、なんとか雨も降らず、ケガ人も出ず、無事に体育祭を終ることができました。

そして、11月上旬には体育祭と同様に大きな行事である東実祭が行われました。本年度は「地球を考えよう」という、初めてのテーマに沿って、様々なイベントを企画しました。「地球」というテーマだけに全校生徒や来校して下さった方の関心が高く、皆様にも楽しんで頂いた東実祭になったと思います。

11月下旬には、私達生徒会が主催した「先生と生徒の懇談会」が行われました。この懇談会は、生徒総会で出された要望案について、生徒会や代議員の生徒達が先生方に質問をして、先生方が答えてくださる集会です。この懇談会では日頃、疑問に思っていることを先生方と話し合うことができ、とても有意義でした。

今後も生徒によりよい学校生活を送っていただけるように、生徒会一同、頑張ってお活動していきたいと思っておりますので、同窓会のみなさま、よろしくお願ひ致します。

●お菓子のご用命はアルベリに●

和洋菓子、クッキー、焼菓子、ギフトetc
まごころこめてお届けします。

株式会社 **アルベリ**

〒230-0062 横浜市鶴見区豊岡町7番14号

TEL: 045-581-5441

FAX: 045-573-6116

<http://www.alberi.co.jp>

第23期 山本 徳太郎

平成18年度 定期総会

平成19年6月9日(土曜)午後3時30分から、蒲田南口「プラザ・アペア」において開催されました。

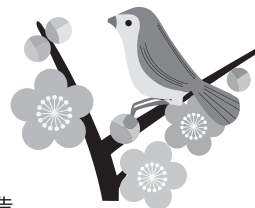
議長に本田位公子会長が選出され、右の「定期総会式次第」第四第3項の決議事項の議案が全て承認可決されました。今年度は、役員の変更期ではありませんが、青木英二副校長が定年退職になられたので、会則規約に基づき、後任の北井邦寿副校長が副会長に就任しました。辞任届出があった18期の坪井治氏と39期の山中俊子氏の両氏が辞任致しました。

総会終了後、同会場で「懇親会」が開催され、懐かしい在校時代の話が弾んで時間が経つのを惜しみつつ、最後は全員で校歌を合唱して、つつがなく終了したことをご報告致します。尚、本総会・懇親会の出席者は、ご来賓4名、16期卒～82期卒の会員84名、学校関係者5名、総勢93名の方が出席下さいました。

ご多忙中のところ、お集まり頂きました皆様には、この場を借りまして厚く御礼申し上げます。(総務部)

定期総会式次第

- 一 開会の辞
- 二 挨拶
 - 1 会長挨拶
 - 2 学校長挨拶
- 三 議長選出
- 四 議事
 - 1 議事録署名人の選出
 - 2 平成18年度 事業報告
 - 3 決議事項
 - (1) 第1号議案 平成18年度収支決算報告書
 - (2) 平成18年度 監査報告書
 - (3) 第2号議案 平成19年度事業計画(案)
 - (4) 第3号議案 平成19年度収支予算(案)
- 五 新幹事紹介
- 六 閉会の辞



同窓会近況報告

平成18年度 収支決算報告書

自 平成18年4月1日
至 平成19年3月31日

収入の部			支出の部		
科目	18年度予算	18年度決算	科目	18年度予算	18年度決算
前年度繰越金(普通)	3,812,574	3,812,574	事務消耗品費	500,000	477,409
入会金	4,200,000	4,310,000	通信連絡費	400,000	356,524
寄付金	100,000	150,000	管理費	280,000	189,021
広告費	60,000	40,000	印刷費	100,000	0
東実祭	200,000	200,000	会議費	500,000	412,695
受取利息	100	763	総会費	300,000	375,638
雑収入	5,000	9,000	旅行費	200,000	159,913
			新年会費	200,000	107,405
			東実祭	200,000	200,000
			会報発行費	400,000	283,442
			慶弔費	500,000	243,000
			卒業記念品費	420,000	347,928
			助成費	200,000	105,000
			寄贈品	0	0
			積立金	2,000,000	0
			交通費	30,000	9,620
			予備費	300,000	0
			次年度繰越金(普通)	1,847,674	5,254,742
合計	8,377,674	8,522,337	合計	8,377,674	8,522,337

積立金等次年度繰越金内訳 (別途会計)

金融機関名	前年度残高	増	減	利息	本年度残高	備考
定期預金(みずほ)	8,043,660		0	2,422	8,046,082	定期預金
定期預金(三菱東京UFJ)	10,000,000		0	4,800	10,004,800	定期預金
債券(中国ファンド)	2,219,648		0	4,921	2,224,569	債券
債券(MMF)	10,926,983		0	26,382	10,953,365	債券
合計	31,190,291		0	38,525	31,228,816	

平成18年年度の収支報告書を監査致しました。
その結果適正且つ妥当であることを認めます。

平成19年5月14日

会計監査 笠原 忠雄 印
小島 浩 印

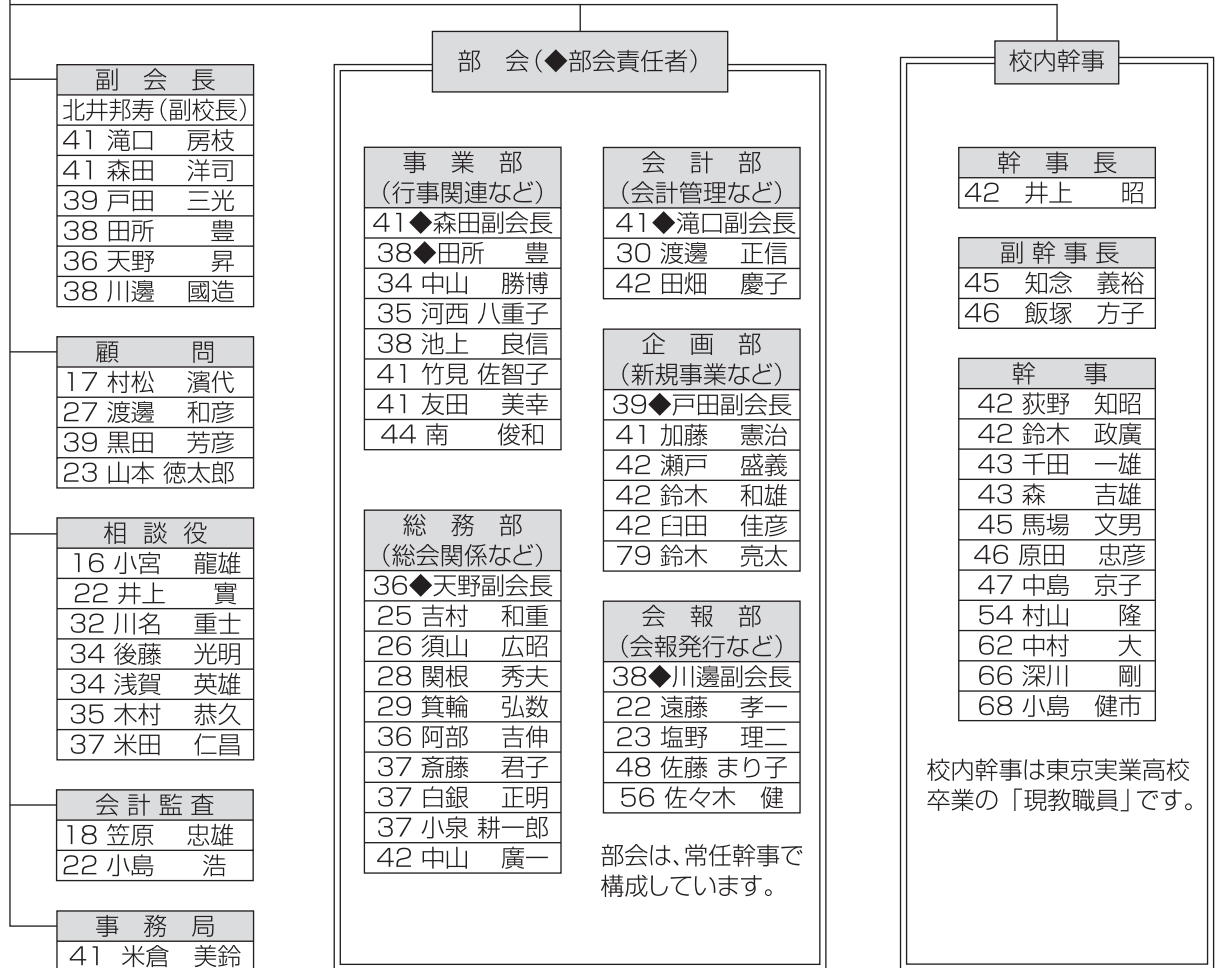


平成19年度 同窓会組織図

名誉会長
上野 毅(学校長)

会長
34 本田 位公子

★氏名の前の数字は「卒業年度」です。
★副会長・顧問は就任順、他の役員は卒業年度順です。



平成19年度 事業計画書

【既に実施・開催された事業については、その内容を報告に代えさせて、いただきます】

- 【総務部】**
- 総会…(開催済)
 - ・総会の企画・運営・管理
 - 日時：平成19年6月9日(土曜) 15時30分～
 - 場所：プラザ・アベア(蒲田駅南口)
 - 懇親会…総会后、同会場で開催
 - 会費：3,000円
 - 庶務
 - ・同窓会に関する庶務一般
 - ・会員名簿整理及び作成
 - ・各期同窓生に対し同窓会参加への強化
 - ・常任幹事拡大への強化
 - ・卒業アルバムの管理
- 【企画部】**
- 新規事業の企画・立案
 - ホームページ管理・企画・運営
- 【会報部】**
- 会報編集発行(19号発行)

- 【事業部】**
- 旅行…(第25回目実施済)
 - ・旅行会の企画・運営・管理
 - 日時：平成19年10月13日(土曜)～14日(日曜)…1泊2日
 - 行先：中伊豆 湯ヶ島温泉
 - 会費：30,000円 参加者：31名
 - 東実祭…(実施済)
 - ・同窓会の部屋設営管理(卒業アルバムの展示)
 - ・「どら焼き」販売実施
 - 日時：平成19年11月3日(土曜)・4日(日曜)
 - 事業…(実施済)
 - ・新年会の企画・運営・管理
 - 日時：平成20年1月26日(土曜) 17時30分～
 - 会場：ホテル キャメロットジャパン(横浜駅西口)
 - 会費：8,000円
- 【会計部】**
- 年度会計管理

昭和10年頃の 蒲田の環境と 子供の遊び

第17期 村松 濱代



私が7歳の時に母が亡くなり、大森の女子医専（現在の東邦医大）の近くの住居から、父が後妻と蒲田で所帯を持つことになったので私は3年生の時に大森第三小学校から、蒲田尋常高等小学校に転校しました。その学校は自宅の裏を流れる呑川を挟んだ対面であって、蒲田では最初に開校された古い学校でした。自宅の裏を流れている呑川は当時、コンクリートの護岸ではなく、「あやめ橋」の架橋の付近だけ土手が崩れないように板で護岸されていました。

当時、この呑川は台風が来たり大雨が降ると、水嵩が直ぐに増して、年に何回か氾濫しました。川っ漕に住んでいたので氾濫する度に、親達は畳を持ち上げ家財道具を濡らさないように大変な思いをしていたようですが、子供の私は壱に乗って船遊びをして楽しみました。呑川の流れには葦や藻が一面に生え、川の水は透き通り、鯉、鮒、ハヤ、クチボソ、鰻等が生息していました。今でも地方を歩いていますと、コンクリートで護岸されていない、草の生え茂った土の土手が見受けられますが、子供の頃の呑川を思い出します。

学校から帰るとランドセルを投げ出して、網を持って川に入り、川底の藻の付近を足で揺らすと、色々な魚が網の中に逃げ込んで来たので、それらを捕まえて遊んだものでした。

夏が来ますと、呑川の上を色々な種類のトンボが飛び交いました。「とりもち」を竹竿の先端当りに30cm程、唾をつけた親指と人差し指で塗り、子供達は「しおからトンボ」、「むぎわらトンボ」には見向きもしないで、「ぎんトンボ」や「ちゃんトンボ」、「やんまトンボ」と言われた大型のトンボを追いかけて捕まえたりして遊びました。

夏の夕日が沈みかける頃になりますと、蝙蝠が何処からともなく無数に飛んで来て、川の上を飛ぶ虫類を食べようと上下左右に飛び交い、下から物を投げると餌と間違えて地上スレスレまで急降下して来ます。子供心にあれだけ多くの蝙蝠が日中は何処に住んでいるのか不思議でなりません。今の子供達は蝙蝠を見たことがないと思います。

呑川に架かる「あやめ橋」は当時はもっと小さい木の橋で、蒲田駅を背にして橋を渡ると、直ぐ左手一帯は広い野原になっていて子供達のよい遊び場でした。

野原の後ろの方は湿地帯で菖蒲園がありました。季節になると見事に咲き乱れ、色とりどりの美しい花の楽園となり、また、夏になると葉の長い草の先に、ロウソク型の黄茶色の穂をつける「蒲の穂」が空に向かって立ち並んでいました。

夏の夜は、がま蛙の鳴き声が大変賑やかでうるさいほどでした。野原には色々な種類のバッタがいて、中でも「オート」と言うバッタは大きく、野原を歩いていると足下から大きな羽を開いて突然飛び立ち、10m位飛んで草の中に潜り、瞬間的に驚かせられることがよくありました。また、野原には鈴虫、キリギリス、松虫、コオロギその他の虫が無数にいて、夜になると虫達の合奏曲の世界でした。

蒲田にはその頃、森があっちこっちにあって、夏になると色々な種類の蝉が集まってうるさいほど鳴き、子供達は「とりもち」の付いた竹竿や網を持って蝉取りをし

たり、兜虫を捕まえたり、子供の遊びは殆ど自然界が相手でした。

蒲田の土地は地名が表しているように蒲田、蓮沼、池上、千鳥町、沼部と言うように池や沼が多い所でしたが、今は殆どが埋め立てられて住宅地になって、昔の面影は全くありません。私の子供の頃は池で魚を釣る人や、池に入って浅い処で、網で魚を捕って遊んでいる光景が随所に見られた程、池や沼が沢山ありました。六郷、蒲田、下丸子、蓮沼付近は特に池が沢山ありました。

六郷橋の下の河原には「もくぞう蟹」が沢山生息していて、私はよく妹を連れてバケツをぶら下げて蟹を捕りに行きまして。葦の生えている干潟には無数の穴が開いていて、その穴の中に「もくぞう蟹」が住んでいるのです。その穴の少し離れた位置から、蟹の居そうな下の方に向かって、竹の棒を斜めに差し込み、上下に揺さぶると驚いた蟹が穴から出て来ます。そこを捕まえました。「もくぞう蟹」は甲羅が3~4cmで脚に毛の生えた蟹で食用にはなりません。バケツに半分ぐらいは、じきに捕れました。捕ってきて胴に糸を結んで遊ぶ程度でしたが、捕まえるのが楽しみだったのです。今の子供達にも蟹を捕る遊びをさせてやりたいと思います。

夏の大森海岸や羽田の沖は遠浅で潮干狩りにはもってこいの場所でした。季節がくると、アサリやハマグリを獲りによく出かけました。その頃は入場料等は勿論なく誰でも自由に潮干狩りが楽しめました。

現在は羽田空港になってしまいましたが、当時は羽田の穴守稲荷の赤い大鳥居を潜ると、穴守稲荷の門前町というのか、土産物屋が両脇に並び、サザエやハマグリを店先で焼いていて、鼻をくすぐるような芳しい匂いをさせて、紺の縞の着物に赤い襷をけし、赤い前掛けをした威勢のよいお姐さん達が、「召していらっしやい」、「上がっていらっしやい」と、参拝に来られたお客さん達に大声で呼びかけている雰囲気は、昔ながらの情緒豊かな風景でした。その穴守稲荷の前を過ぎますと、直ぐ後ろが海岸で引潮になると、遥か彼方まで遠浅で1キロ以上潮干狩りの出来る砂浜でした。潮干狩りの人々はメリケン粉袋や米の麻袋など思い思いの入れ物を持って、砂搔を片手に海水の引いた遠浅の砂地を「ビシャビシャ」と沖に向かって歩き、大きな貝の採れそうな所を選び足の爪先で砂地を掘るように探しますと、アサリやハマグリ、潮吹貝等が足の裏の感覚にさわります。その辺りに陣取って砂搔で砂を掘りますと、面白いように貝が採れました。潮吹貝は美味しくないので皆捨ててしまいます。採れたアサリやハマグリを持ってきた袋に放り込んでいるうちに、袋がいっぱいになり、潮も上がってきたから、ぼつぼつ帰ろうかと袋を持ち上げると、子供にはとても重たくて持ち上げられません。残念ながら、採った貝を或程度捨てて海岸に戻るのでありますが、途中で重たくて何回か捨てて帰る始末です。貝は美味しいので持って帰ると家族に喜ばれます。貝をバケツに入れて水を差し、塩を入れて塩水にし、錆びた釘などを放り込んで置きますと、貝が海水と間違えて砂を吐き出して美味しく食べられます。多摩川のカス橋付近はシジミ貝が沢山採れました。私が小学校三年生の頃、カス橋付近へシジミ貝を採りに行き、危なく溺れ死にすところでした。

当時、多摩川では砂利採掘船が何隻も出て砂利を採掘していました。私はシジミ貝を採りに川に入り、浅い所でシジミ貝を採っていたのですが、砂利採掘船が砂利を掘った後の穴に落ちてしまいました。その頃は全く泳げなかったのに「アップアップ」ともがいているところを、幸いに近くでシジミ貝を採っていた人が見つけて助けてくれました。それから泳ぎを知らなければならぬと思い、父に話をして森ヶ崎の海水浴場に泳ぎを習いに夏、通いました。

今の子供達が自然の中で遊ぶことが出来ないのは、世の中を便利にするために、経済の拡大を図り、環境を破壊してきたからで、天に向かって唾をしたようなものです。

久し振りに 学校を訪問して



第37期 南谷六郎(ペンネーム)

昭和37年、機械科を卒業して早や44年経ちました。

平成18年11月4日、東実祭の際、40年振りに高校を訪れ、同窓会室で本田会長をはじめ同窓会の方々に学校の状況をお聞きしたり、当時のアルバムを拝見する等、久し振りに多感と情熱の青春時代にふけた次第です。

入学は昭和34年、日本経済が高度成長期に差掛かった頃でした。高校時代の専攻は機械、大学での専攻は電子・通信工学で、高校では40年余り携わる仕事に役立つ「メカトロニクス」の「メカ」の専門知識を学ぶことができました。高校時代に学んだ知識は今でも大いに役立っています。最も思い出深いことは、高校3年の秋に大学進学を目指し、先生方をお願いをして放課後3ヶ月間、受験3教科(英語、数学、物理)を特別に補習して頂き、人生で最も目標に向かって集中、その甲斐あって志望大学に合格、先生方に報告して大いに喜んで頂けたことでした。私の人生訓の「何事も目標に向かって集中して取組みば達成できる」のバックボーンになる出発点でもありました。

社会人として40年間、電子部品関係の会社を上場企業に飛躍できた原点は、この青春時代であったと実感した次第です。

益々の東実のご発展とご活躍をお祈りしております。

uno CO.LTD.

ビジュアルプランニングのパートナー
写真の撮影・編集・印刷・製本まで

有限会社 ウーノ 03-3871-3448
110-0003 東京都台東区根岸3-1-11

親師会 福田 真

●● 楽しい室内空間作りのお手伝い ●●

インテリア 遠藤商店

〒146-0085
東京都大田区久が原3-34-12
TEL(03)3752-3027 FAX(03)3752-3359

第22期 遠藤 孝一

「第22期」 卒業記念アルバム?



第22期 井上 實

無い!無い!我等には卒業アルバムがないのだ(20期から22期まで)。

東実祭の同窓会室では、毎年豪華版になる卒業アルバムに嬌声をあげている姿を見かけ、羨ましい限りである。

昭和20年頃、蒲田商店街には写真屋は一軒あるかないかであった。それも、軍の許可なくては撮影してくれない。あちこちと探し当てた有志9人組で、目黒のハネダ写真館に無理を承知で頼み込んで、3年生の初め頃、撮っておいたものである。



昭和17年4月に入学した我等22期は、ABC組の各50名で合計150名、グリーンの制服で勇ましい気分だった。全員で撮った写真(昭和18年)は、この時の「富士の裾野板妻廠舎(現、陸上自衛隊板妻駐屯地)」前が、最初で最後の卒業アルバムとなった。



やがて、終戦を迎えた我等3年生は、東京大空襲の際に死亡した者、田舎に疎開した者等もいたので、集合できた者達50名足らずが東京中学の教室を借りて授業を再開したのだ(4年生まで)。しかし、教員も教科書もなく、朝礼も出来ず、1時間もたわずに解散して蒲田商店街をフラフラになり、乾燥芋屋台店を探しながら帰ったものだ。修学旅行もなく、卒業行事もなく、何も無い日本の敗戦の姿であった。だが、今でも我等卒業記念アルバムは、心の中の校舎と共に焼け残っていることを信じたい。

テニスの 折おりの 思い出

第19期 小出 興三



ジャズファンを魅了している、ペギー葉山のヒット曲に「学生時代」がある。私はそのメロディーをフト耳に触れ、聴いたりすると決して東実の庭球部時代の頃が懐かしく静かに浮び上がってくる。心が弾み胸を躍らせてなんとなく楽しい気分になって行く。不思議な現象だなァと気がかかっている。

歌手のなんとさわやかで気持ちいい美声に魅せられたものか、それとも歌詞の中に「テニスコート キャンプファイヤー 懐かしい日々は帰らず すばらしい あの頃 学生時代」とある学生時代に心が引かれ若き日への郷愁にかられる仕業なのか。そのテニスは私の志望ではなかった。

1939年（昭和14年）東実校に進学したなら、バレーボール部に所属したいと決めていた。というのは、川崎市の川崎小学校の時に排球部の選手の一員だった。或る日、ある地域大会が花月園公園（横浜市）コートで開催された。一進一退の白熱戦の結果、運良く優勝をした。その感動は深く心に刻み込まれ、その快い感情は次の機会へと伝承展開する出発点にもなってしまった。そして、あの友に巡り会えたこと、更に先生にご指導をいただいた等のお陰だと深く感謝し、恵まれた環境だったと思いついている。先生のお言葉の通り、「困難が大きければ大きい程、喜びもそれに比例する」と貴重な体験が出来て、その後の生き方の指針ともなった私です。進学したならば是非ともバレー部に所属して、優勝への道へ再度挑戦したいと強く心に決めていた。然し、私の確認ミスで母校にはバレー部が無かった。少年なりに思い煩い心の静まる迄、長い時間が経過した。また、一方ではテニス部員の友達の親切さに絆されてテニスを勧められていた。果たして大きなボールから小さなボールに馴染めるか、夢の優勝はどうだろうかと思案に沈んでいた。その決心がつかずに、ぐずぐずと過ごしている内にテニスのシーズンオフを迎えた。

或る日、仲間達から東実の庭球部の情報を聞かされて興味津々と関心をそそられた。伝聞を聞き繕うと東実の庭球部は、旧制中学の時に優勝の実績を残し、或る時は強豪の一角を守り続けた伝統ある名門、と庭球界で認められた頃もあったと聞かされた。私は、その伝統ある名門の言葉に少年なりの直感力が閃いた。伝統ある名門は幼い頃からの憧れだった。永く伝承された考え方、きまり、しくみを学びたいと思っていたので心が引かれ、その道を進めばやがて優勝への近道になるかもしれないと感じた。伝聞の事実確認のため、走り廻った。

1940年（昭和15年）2年生の春、庭球部に所属した。人情味豊かで親しくしてくれた友人のお世話に応えることが出来てホットした。その仲間達の微笑に会って凡百の迷いも覚め、心が静かになって落ちついた。

その頃、街には標語が目につくようになった。「日本人なら贅沢は出来ないはずだ」男手が減少の中、女性の肩に背負う責任は重くのしかかった。国外では中国戦線の泥沼化。米国は日本の中国大陸、仏印進駐から全面撤兵を要求し、三国同盟を否認、交渉妥結の道は閉鎖された。日米関係は刻一刻と悪化しつつあった。そんな中で、スポーツの活動が国に認められた。その理由の一つに、運動によって鍛えられた体は、拡大した戦線や国内各地の守備隊補充に役立つとの理由だったと聞く。部活に加入を認めた「射撃班」と共に各運動部は自信と活気と活気に満ち溢れていた。然し、世情は暗く、深刻な事態を吹き飛ばすためなのか、紀元2600年の祝典で盛り上がりを起こし、国民の意気軒昂ぶりを煽動し、鼓舞するのに国家は躍起となっていた時でもあった。

そんな世情の中、学校の放課後、長方形の校庭でテニス部の練習の他、弓道部、射撃班、銃剣道など毎日行われて

いた。

旧校舎をご記憶の方もいらっしゃると思うが、L字型の総二階建てである。L字型のその角の部分だけは三階建てになっていて、その一階の一部分は通用口として使用されていた。通用口を通過すると校庭内に入ることが出来た。入った角に鐘が吊り下がっていて、授業の始まりと終わりの合図にその鐘は使用された。

やがて、係りの須山さんの右手に持つ鐘が変わっていった。打ち下ろす鐘の音が今でも鮮明に残っている。カラアーン、カラアーンと音の高さ強さが違って感じられた。その折々で音色がいろいろ違っていることに気がついた。或る時は遠くから、のどかに聞こえたり、また、時には冷たく冴え渡るように聞こえたり、時には嬾に浸み入るような優しい音色に聞こえたりもした。懐かしい学生生活の思い出の一つとして、深く印象に刻み込まれて嬉しく思っている。放課後を知らせる合図の鐘を聞いて、新人達は一目散にコートへ集合する。上級生の練習が出来るように御膳立てをするのが役目だった。そして、先輩の練習を見るのが私達の練習の始まりだった。コート内の先輩は真剣勝負さながらで見る人の心に迫った。白球の快い音は周囲の静けさを破ってこきました。

見学者は、そのテンポやリズムを感じながら見る側も緊張の中に快適さを味わった。コート内の先輩の動作、しぐさ等を細かく観察して、自分なりのテニスの基礎を創って行った。軟式庭球の基本はグランドストロークという。私のテニスは先輩の真似から始まるが、大柄な先輩だったため、小柄な私は自分なりにアレンジをしなければならなかった。

見学が終わると軟式庭球の基本であるグランドストロークの素振りを上級生の指導で教わった。先ず、フォアハンドで持って、打つ時の重心移動とフットワークとヒッティングの際のフォロースルー。終わりにバックスイングをその要領で繰り返し練習して一日のメニューを終了とした。

時には、空いているコートで新人同志でグランドストロークの練習を試みるが、あの大きなラケットがボールに当たらなかつたり、ボールをネットに引掛けたり、その度に練習を中止して、ボール拾いに右や左に手間どった。更に、イメージ通りに返球が出来ずにコート超え、それが度重なると次第に体力が消耗して、気力も衰え練習にならず途中で中止となる始末だった。

常日頃から、先輩に上手になるコツは、「見て習え」、「体で覚えろ」、それに「夢中になれ」の言葉だった。今になって思うに、「好きこそ物の上手なれ」の諺に近いかなと感じた。単純な練習が続く毎日々々なので、テニスの上達よりも先に生まれたのが憧れと夢であった。特に先輩の華麗な技に瞳を凝らした瞬間、その時から私も出来るならばと。

昭和16年には標語も「欲しがりません 勝つまでは」に変わった。小学校は国民学校に改称され、六大都市中心に米は配給制になって、銃後の国民は辛抱と忍耐と我慢の時代が変わる。12月8日の真珠湾奇襲攻撃成功で戦勝気分が漂い、さまよい歩きで昭和17年6月5日のミッドウエー海戦で敗北。国民に知らされない数々の敗北。米国は此の機に乗じて本格的に攻撃を開始した。

そんな状況下の夏休みのこのこと。庭球部の夏季強化合宿練習が始まった。それは此の秋に現在の霞ヶ関に在る日比谷公園テニスコートで「東京市全中学校軟式庭球大会」出場のためだった。

夏のやけつくような暑い空の下で、体力の続く限り日まで練習に励んだ。この合宿での私の課題は二つあって、その一つはフォーメーション、コンビネーションとグランドストロークの再確認、再点検であり、もう一つは当時私が開発したとばかりと思っていたが、今のリバースサービスに似たフォームである。

ゴムボールの特徴を生かして、サーブしたボールが着地点で曲がり、在る時は弾まないサービスを考案した。そのサーブの欠点は未熟なフォームのためか、確実性に大変な不安定要素を孕んでいた。然し、決まると必ずポイントを獲得した。そのサービスのポイントを獲得した。そのサービスの安定性を確保するためには、どうしたらよいか試行錯誤が続いていた。そんな思い出の他に水道のおいしさがあった。炎天下の毎日、気力と体力が不十分な状態になる

まで特訓を受けた。菌を食いしばり全身から吹き出る塩分を舐めながら、体力、気力の限界点のレベルアップに挑戦した。他校の選手達も同時進行だと思つと負けられずに頑張った。飲みたい水も今は我慢の時だ。小さな努力でも根気よく、辛抱強く続けていけば必ず成功する。という「雨垂れ石をも穿つ」と、先人の知恵も時には大切かと思うが、精神論的な考えでいた頃を考えて、更に科学的な方法はないものかと考えたり、その苦しきから逃れようとしたことがあった。辛抱して、やっと休憩の時間に入るやいなや、水道の蛇口へ口を寄せ、ゴクリ、ゴクリ、と飲み込んだ喉越しの水は格別な味がした。冷たい清々しい味は山峡の清流を偲ばせるような感じがした。物の無い時代の貧しさに張り合い、さからうことなく従順だった頃を思い出す。

そして、休憩はコート南側のスズカケの木が一行に並び、その緑陰に誘われて腰を下ろすことにしている。その木々を渡って来た涼風が、体も心も静かに和ませてくれた。そのスズカケの木越しに南の遠景を眺めると、家並みが低く長く連なっていた。それは一見すると仕舞屋風に思えたが、その中で一軒だけ古く暖簾が掛かっていて、ヒラリ、ヒラリと揺れていた。丁度、映画の時代劇のシーンのようだった。その家への人の出入りを見たことが無かったので果たして何の商いなのか興味を抱いていた。若しかすると「食べ物屋さんかな」と感じた。疲れて空腹の時なので食べたい一心で、その欲望がそうさせたのかもしれないと思った。時代劇風な暖簾の謎に、唾を呑込んだ長閑な風景が懐かしい。そして、その家並みの上の空は、どこ迄も高く大きく広がって行く。その家並みの前の道路は現在の環八の前身で、車の往来は少なく、自転車、オート三輪車などが車より多かった。大きな荷物に乗せた大八車を3〜4人の男達で引いたり押ししたりする姿は、戦前・戦中だけの風景かと思う。

今と違って、時はゆっくりと流れていた。夕影が当たる頃になると、お豆腐屋さんのラッパの音が遠くの方から聞こえて来て、近くを通り過ぎ、再び遠去かかって行く頃になると、それが合図かのように合宿の一日が終わってゆく。

夏の合宿も終わって、二学期が始まった或る秋の日。いよいよ秋の大会の日が巡って来た。その日は風もなく、秋高く、秋うららの日比谷公園テニスコートの試合会場に、東京市内の全中等学校の軟式庭球選手が集合した。その試合はダブルスのトーナメント方式で、勝ち抜き乍ら優勝を決める大会で、私にとっては公式戦のデビューであり、記念すべき一日でもあった。会場で見えるもの、聞くもの、全てが初めての体験の弱さが諸に出て、ひたすら係員の方のご指導を仰ぐばかりで、全くの余裕は無かった。更に、これからの戦いに臨み、心が勇み勢い込むありさま。私のパートナーは前衛の選手で、初めてのベアーになった。お互い気を張り、気を配ったりして気を緩めることもなく、暗中模索のゲーム展開をした。前衛選手は的確な判断と機敏なフットワークに優れて、且つ、至近距離間の勇氣あるボレーの勇姿が見られて、立派な選手だった。私も、そのポイントに気を良くし、それが誘い水になって、私の得意のグランドストロークに、ラリーに、そして新しいサービスを使用して腕を奮うことが出来た。

運よく勝ち進むことが出来て、5〜6回戦へ進んだ時、指定のコートを間違えたのかと感じた。というのは、今迄のコート外のお客さんと、見に来ている選手達の数が多かったの、ビックリした。直ぐに係りの方に確認した程であった（現在、日本体育協会内、日本ソフトテニス連盟に問い合わせ、FAXで資料を頂いた。今、明らかになっていることは、此の大会の資料だけが抜けていることが判明）。対戦校は某師範校の学生で、背の高い体格の良い二人の選手だった。コンビネーションプレーが安定していた。当方も粘り強く対戦した。相手選手の攻めは、後衛が仕掛けてきて前衛がボレーかスマッシュでポイントを取得したり、死角を攻め、或いは、弱点を攻めて来るという頭腦的なプレーなどが安定していた。こちらも負けじと、新しいサービスで対戦してポイントを稼ぎ、相手を驚かせることが出来た。その喜びと嬉しさに、気を緩めることなく、グランドストロークに、ラリーに耐えしのび、ねばりある試合展開で対戦した。然し、対戦者は当方のミス誘い出す技に優れ、或る時は強打に、時には変化球で惑わした。そのために、完全にリズムが狂い完敗した。デビュー戦にしては

試合の攻めをたくさん試し、大変にラッキーだった。来年（昭和18年）の夢が実現しそうな距離に近づいて来たことを大事にしようと思った。反省点は大きいがあるが、後悔の無いデビュー戦だった。

試合が終わって、公園内の帰り道、両側の緑に覆われた長い道を歩いた。公園を出たところで、コートに一礼をしようと振り向くと、夕映えの空が輝いていた。空は淡い紅色より桃色に近い色で染まり、真白な雲が浮かんでいた。その美しさに、うっとりとして見ていたその一瞬に、来年を思い煩う、夕眺めになって有力な技がひらめいた。来年の大会にレパトリーを更に増やしたいと…。練習は大会の翌日から、いつもの通りに始まった。毎日毎日、上達をめどに、くりかえし、くりかえし習うことが苦にならずに、むしろ楽しく時間を過ごせた。身についた習慣は有難いことだとつくづく感じた。

何時もの通りでないのが国内情勢である。昭和17年2月、大日本国防婦人会が発足し、戦争協力機関として活動が始まる中、ドウリットル隊に依る本土初空襲が始まり、その国防圏の崩壊が見え隠れした頃、歌の伴奏にのって、純真な少年達は憧れの「七ツボタン」や「少年兵」へ志願が続く。やがて、昭和18年10月21日、出陣学徒壮行会に繋がって行くのである。当時の新聞によると、「雨の神宮に集まった若者達の胸に去来したものは…、父よ、母よ、友よ、恋人よ…、胸を熱く焦がしつと、歓呼の聲に送られて学徒は出陣した。」戦争の惨さど平和の有難さに臉が熱く、じわじわと染みていくのを感じる。

1月から庭球部の練習はコートのコンディションが良い日に限って、自由に使用することが出来た。1月の或る日の放課後、下級生達の練習が始まったので見学していた。その時、上級生の一人がコートに向かって走って来るのを眺めていた。上級生は私の前で止まって、激しい息づかいで「今年の大会は全部中止と決定した」と息を弾ませた。私は、ええ、と驚き、悔しさの衝撃で「それは本当ですか」と、疑問や否定にも通じる言葉を投げて先輩の目を凝視した。先輩は無言のまま、顔が少し上下に動いただけだった。私は腹立ちを抑えようとスズカケの並木に身を寄せた。並木越しに見る南側の大空は、雲が垂れ籠めて、ただただ灰色のどんよりとした空間が広がっていった。心強く強く打たれた動揺が続く中、のんびりと静かな音を響かせて、東急目蒲線が眼の前を通り過ぎて行く。一年生の時と、今回の四年生の時を合わせて二回の挫折感を学んだ。

国の方針、社会の形勢などからしてやむを得ない、どうすることも出来ないことだと推測し、理解できるのに時間はかからなかった。拡大した戦線で孤立した戦場の悲劇、銃後の耐乏生活に辛抱する国民。そんな中で、4月に5年生となるが、男の働き手の補充に、その年末の12月24日に繰り上げ卒業となる。余りにも突然の出来事だったので、びっくりして、心が騒いだ。

「運は天にあり」と思う。運は天にあって、人力ではどうすることも出来ない運命を感じる。人間の力を超えた作用が見えたり、見えなかったりするのが人生かもしれない。人生とは、人との関わり、人の支えに関することが多く、大きい。

母校へ入り、庭球部に入って心に残ったことは「夢」を見たことである。未完に終わり残念だったが、ウォルト・ディズニーは、「それを夢見ることが出来るならば、あなたはそれを実現できる」と、言っている言葉を信じて気よくしている。

スポーツの基本に、「心技体」がある。体は衰え、技は思うように動かず、心の精神作用だけが頼りの現在である。あの未完の夢が残っている。それがベギー葉山の「学生時代」に繋がるのかも知れない。

私の見聞を、想像を前提に、人や出来事など、順を追って記して見た。

「折折に 調べ聴きつつ 年惜しむ」

愚作を挙げ、擲筆とさせていただきます。

(参考資料)

「昭和と戦争」保存版原告特集他東京新聞

私の53年の歩み



第32期 石井 澄枝



昭和29年4月、女子部は18名で発足しました。それまでは男子校でしたので、上野熊蔵校長先生はじめ、諸先生方に3年間、大切にはぐくんでいただきました。

今でも、昨日のように鮮やかに思い出されます。私は八女の末っ子で、「東実」入学時から父親が厳しく、勘当同様に、クラスメートに毎日会えるのが楽しみでした。

2年生の時、商工会議所「珠算検定2級」を取得。また、母の寛大さで中退することもなく卒業できました。いまでも亡き母に感謝でいっぱいです。

私は小学校4年生の時、眼を悪くし、現在に至るまで強度の乱視で、黒板の字は見えませんでした。しかし、近くは見えるので読み書きや仕事には支障ありませんでした。ハンディにも負けることなく、4回の転職を経て、42年間、経理と人事の仕事を貫きました。5社目は、医療品販売の会社で、主に全国の各病院等々に薬を納品している会社でした。私は設立1年目に入社し、定年退職する日まで、無遅刻で22年6ヶ月に亘り勤務しました。

この会社では担当業務の傍ら、男性社会の渦中で、女性の地位向上を求め、男女平等を手にもできました。あらゆる困難も自由自在に勇気と努力、そして、知恵で道は必ず開けると、確信して頑張りました。定年退職して、9年目になりますが、その間6件の簡裁訴訟ですべて勝利しました。費用がかかりますので、弁護士に頼らず一人で戦いました。

現在地域社会にあって、また、サークル活動等々で一つ一つ花を咲かせています。これからも、更に「生涯青春」で、前に向かっていきます。そして一句。

自ずから笑顔で歩む 梅の花



懇親旅行 (2007.10.13~14)

第25回 懇親旅行記



第41期 山本 正子

毎年恒例で行われる同窓会懇親旅行が、昨年も10月13日・14日に行われました。

行先は、「中伊豆湯ヶ島」です。総勢31名の参加で、初参加は3名程。一人の遅刻もなく、お天気にも程よく恵まれて、サロンカーで出発です。朝からパワー全開で気分よろしく、飲む程に、酔う程に、車内は和気藹々です。歌にビンゴゲームにと、役員さん達が整えて下さった景品。その努力に感謝です。途中、美味しい昼食を頂いて、伊豆ワイナリーに寄って、皆それぞれ試飲をさせて頂き、早々に宿に到着。宿は、日本一の「巨石風呂」と「巨木風呂」のある昔を偲ばせる落ち着いた雰囲気、素晴らしい「白壁荘」という宿でした。湯に浸りながら、学生時代に戻り、先生方や、あの友、この友の近況など、年を忘れて当時の思い出話は尽きませんでした。懇親会交流の宴会では、面白い余興あり、ゲームあり、歌ありの楽しい一時です。今回の旅行に41期だけで16名が参加しており、その者全員に皆様から、万歩計と赤い(?)を還暦祝いに頂き、本当にありがとうございました。改めて役員さん達の心のこもった知恵と、心づくしに感謝致します。

宴会後、一時間程、津軽三味線で一弦供養の「白井勝文」さんの「語り部」と「三味線ライブ」があり、何度も涙する程、私には最高の思い出となりました。

二次会に行きたい人達には、一寸間が入り過ぎてしまったようですが、それでも、又パワー全開のようでした。

翌日には、善福寺で説法を聞いて、伊豆の山々や海岸をドライブ。美味しい空気を沢山補給して昼食を頂き、途中下車した人もおりましたが、帰路に着きました。

私は初めて参加させて頂きましたが、時間と年を忘れ、皆と語り合える有意義な時を得ることが出来ました。

人恋しい年齢になって、あの友、この友も参加されたら、これからの人生もっと楽しく、同窓会も楽しくなるのではないかしらと…。それは、同期でなくてもすぐ打ち解けられる筈ですから。今回、私の期の参加者は約半数(16名)でしたが、偏らず、皆に一声かけられる手頃な価格に設定出来ないものかしら…と、広範囲に亘る卒期の輪や、後輩達の参加を希望しているのに、そういう所から変えていけないものかと思うのは、私だけカナ…。更なる同窓会発展のため、一考をお願い致します。

生意気なこと書かせて頂きましたが、役員さん達のいろいろなご苦勞を思う時だからこそ、同窓会の益々の発展と健康に留意し、同窓生皆様との語らいを楽しみにしたいと思います。会長、役員の皆様方、本当にご苦勞様でした。ありがとうございました。

同期会報告

第20期同期会



第20期 竹中 郁夫

第20期生と言えば昭和20年3月の卒業で第2次世界大戦の真只中、大変な時代でした。

学友の中には海軍予科練習生や陸軍少年航空兵等に志願した者もいましたが、殆どの生徒は学徒動員で工場に行き奉公すると言う苦しい毎日でした。従って、卒業式と言っても全員が揃うことなく行われました。

空襲で家を焼かれた者、転居した者等みんなバラバラになってしまいましたが、有志から同期会を開きたいとの要望が出て、先ず、名簿を作ることになりました。

東京、川崎、鶴見、横浜等それぞれの在住者の協力を得て苦勞の末、昭和51年4月に同期生117名と恩師10名の名簿が完成しました。

昭和51年5月30日に第1回の同期会を母校に於いて、開催することが出来ました。上野幸一校長先生を始め、鷹野先生、三留先生のご令息のご出席を頂き、44名が集まって盛大な会になりました。以来、平成18年12月10日に蒲田西口駅ビル「銀座アスター」に於いて、「傘寿の祝い」を兼ねた会を開きまして、これまで21回の同期会を重ね楽しんでまいりました。

昭和58年には念願の卒業アルバムも完成して大いに喜ばれました。

今後も出来る限り続けて行きたいと思っております。

第19期同期会



第19期 吉浜 照治

東京実業学校第19期卒業生の同期会は、毎年10月に開催され、昨年は川崎市在住者が幹事となって14名が参加し、在校時代の昔話で大いに盛り上がり、最後は校歌を合唱して解散しました。

来年は、横浜市で開催予定です。

祝喜寿の同期会



第23期 小島 浩

「拝啓 爽秋の候 今般当同期会では 母校東実祭に参加することになりましたので お誘い合せの上 是非ご参加下さい 平成19年11月4日 東実祭同窓会室集合」の案内状が届きました。代表宮島昭五郎君他実行委員の方々のお世話で計画しました。時々集まっていた小さな会でしたが、平成6年頃より食事会や一泊旅行となり、充実した会になりました。東実祭は秋晴れの日和となり、13名の元気な顔が揃いました。大食堂でカレーライスやラーメン等の昼食をしました。私達の学生時代は戦時中のため、勉強時間は少なく学徒動員として唐沢鉄工所で働かされ、工場から昼に弁当が出され、同じ釜の飯を食べた仲間であり、学生の頃を思い起こさせられるものでした。

私は東実生を経て、昭和29年に東実の教員となり、半世紀近く商業科に勤務、現在は時々同窓会の仕事を手伝っています。

23期13名は記念写真を撮り、学校で頂いた学校案内と入学案内を見ながら、今の新しい教育や部活動の活躍振りに卒業生として全てが大感激でした。同期で同窓会会長を二期務めた山本徳太郎君が欠席のため、皆で激励の寄せ書きをし、後日届けることにしました。各自で校舎を見学し、60年振りに東京実業高校を訪問出来、平和な社会の中で生き、健康で喜寿の歳の同期会に集えた想い出のよい一日でした。



23期同期会参加者一同 (2007.11.4)



19期同期会参加者一同 (2007.10.25)

事務局だより

物故者

卒期	氏名	没年
蛭窓14回	戸田 健次郎	平成12年4月
蛭窓15回	牧田 一郎	平成18年
蛭窓15回	羽下 良夫	平成19年3月
17期	白井 恒一	平成18年4月
18期	林 孝嘉	平成18年9月
19期	吉川 修二	平成18年11月
22期	青木 義勝	平成15年11月
22期	平野 公一	平成18年
22期	若山 俊雄	平成18年9月
23期	高瀬 健二	平成15年1月
23期	林 照二	平成13年4月
26期	未安 義正	平成18年2月
26期	竹内 松寿	平成19年10月
34期	石渡 忠男	平成19年6月
38期	昼間 悦司郎	平成19年8月
47期	中島 京子	平成19年8月

*「蛭窓」は、定時制卒期です。

同窓会行事に参加を!

6月…定期総会 11月…東実祭
 9月…懇親旅行 1月…新年会

同窓会行事は、毎年上記の時期に開催予定となっております。同窓生の方であればどなたでも参加出来ます。お知り合いの先輩・同期・後輩の方にご連絡頂き、お誘い合わせてご参加下さい。

詳細については、事務局にお問い合わせ頂ければ、案内状を送付致します。また、同窓会のホームページでもご案内と、お申し込みが出来ます。

懇親旅行で一句

37期 小泉 耕一郎

旅の帰途 何と夢見る 稲穂かな
 すすき咲く 同窓たちの 天城越え
 柿実り 枝をばなれて 友と旅
 秋風が 運ぶ心の 伊豆の旅
 バスのゆれ いつしか静かな 虫の声

平成20年度 定期総会のお知らせ

日時 平成20年6月7日(土)
 PM3:00~6:00
 場所 プラザ・アペア(蒲田駅南口)
 会費 懇親会費 3,000円
是非ご出席ください。

編集後記・事務局より

多彩な同窓会の活動を伝える、楽しい会報を目指して編集部一同頑張りました。

会報を通じて情報を感じ取って頂き、ご理解と一層のご協力をお願い頂ければ幸いです。

月探査機「かぐや」から見た地球の画像は、とても美しい星に見えました。この素晴らしい星に住む我々は、温暖化を防ぎ、地球の美しさを守り、次世代に残すため叡知を出して明るい未来を目指しましょう。

また、少子化による就学児童の減少は、社会や学校の未来にも気になる事態です。

寄稿、広告にご協力頂いた皆様に感謝し、皆様のご意見ご感想をお待ち致します。(会報部部員一同)

* * * * *

本会報は、卒業年度を含め3年間配付しておりますが、以降は、同窓会役員・同窓会行事出席者・本会報への寄稿者等にしか送付しておりません。

在庫部数に限りがありますが、クラス会・同窓会の開催の際には、事務局にご連絡頂ければ、差し上げます。

ご遠慮なく、お申し込み下さい。(事務局)

同総会に関する各種お問い合わせ先

ホームページURL	http://www.tojitsu-dosokai.com
e-Mailアドレス	info@tojitsu-dosokai.com
学校TEL・FAX	03-3732-4481・03-3732-4456
事務局TEL	070-5551-0460

編集・発行 同窓会会報部

責任者	川邊 國造	協力者	本田 位公子
担当	遠藤 孝一	〃	白田 佳彦
〃	塩野 理二	〃	滝口 房枝
〃	佐藤 まり子	〃	志賀 由直
〃	佐々木 健	事務局	米倉 美鈴